

「朕は決して汝を救くことは出来ない、若し汝を救けば朕が生命は救からないのである。」

このときは役人は藤堂の左右の目を布で蔽ひ、細で手を縛つて斷頸臺に上せ、氷のやうな白刃を振り上げて、陛下の聲と共に一撃の下に首を切りおとさうと致しました。藤堂は忽ち聲を發して

「私が今死ぬるに當つて一言申し残したいことがあります。陛下お聞き下さい。」

と申しました。王は役人に振上げた白刃を下させて

『今になつて申し残すことは何んであるか、早く言へ。』

藤堂は聲靜かに次のやうなことを云ひました。

考へもの

(一) 一寸よりか小さな人間で日本中を

あるきまわるものは、なに?

ろくぶ

(二) まいにち讀むもので、上からよん

でも下からよんでも同じものはなに?

しんぶんし

(三) 人間のからだのうちで、上にも下

にも、ほの字のつく五字からでき

た名の所は、どこ?

ほんのくほ